

兵庫県立浜坂高等学校 学校だより

～みんなで育て、みんなが育つ～



浜坂高校通信

令和6年度 第3号 令和6年11月22日発行

〒669-6701 兵庫県美方郡新温泉町芦屋 853-2

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~hamasaka-hs/>

2年生 台湾への修学旅行

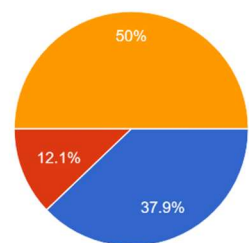
10月22日(火)～25日(金)、2年生が修学旅行で台湾へ行きました。姉妹校である屏東県東港高級中學との交流、夜市、『千と千尋の神隠し』の世界観に似た九份の散策、故宮博物院見学と充実した内容に大満足でした。3日目以降はあいにくの雨となりましたが永康街や九份での班別行動を存分に楽しめました。



事後アンケートより

Q1 修学旅行前に行き先が台湾と聞いて

どう感じましたか？



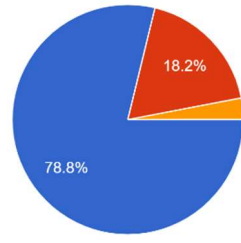
「ネガティブ」と回答

50%

- ポジティブな感じ方 (嬉しい・楽しい・ワクワクなど)
- 特に何も思わなかった
- ネガティブな感じ方 (不安・嫌だ・行きたくないなど)

Q2 修学旅行全般の満足度を

5段階で



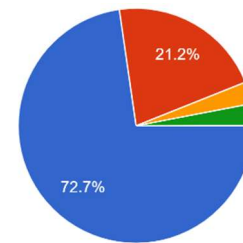
「満足」「大満足」と回答

97%

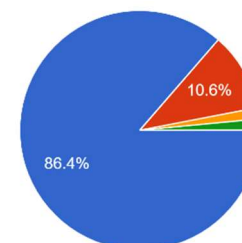
- 5点 (大変満足している)
- 4点 (どちらかと言えば満足)
- 3点 (特に思うことはない)
- 2点 (どちらかと言えば不満)
- 1点 (大変不満が残った)

満足度が高かった項目(活動内容を5段階評価)

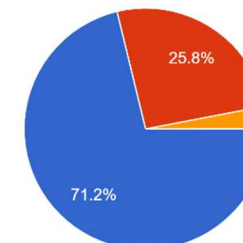
姉妹校との交流



九份散策



永康街散策



- 5点 (良かった)
- 4点 (どちらかと言えば良かった)
- 3点 (特に思うことはない)
- 2点 (どちらかと言えば悪かった)
- 1点 (悪かった)

生徒の感想

- ・海外に行く普段できない旅行ができて、日本と台湾の文化の違いや、学校交流で台湾の学生との交流で勉強や人間関係の積極性にすごいと思った。写真がいつでも撮れたのが嬉しかった。たくさんの写真が残せてよかった。台湾の事前学習と平和作文で台湾の歴史について学ぶことが出来た。この修学旅行で他の国にも行って文化の違いを知り楽しみたいと思った。
- ・台湾って聞いた時は不安だし嫌だと思ってたけど行ってみると楽しくて帰りたくないって思った！姉妹校の人もみんなフレンドリーで今でも話したりしてるのでまた行きたいと思った。
- ・最初はあんま楽しみじゃなかったけど行ったらめっちゃたのしかった。学校交流がいちばん楽しかった。
- ・前からずっと楽しみにしてたけど期待以上に楽しくて、いろんな人や食べ物や文化に触れて台湾が大好きになった。人生1最高の思い出になりました。
- ・最初は正直沖縄行きたかったなーと思っていたのですが、終えて改めて考えてみるととても良い経験をさせて貰えたので行ってよかったなーと思います。
- ・色濃く残るとてもいい思い出になった日本と違うところがかなりいっぱいあって面白かった。
- ・他国との交流のコミュニケーションは伝えたいことがなかなか伝わらないので難しいと思ったが、一生懸命伝えようとするのが大事で大変より楽しいの方が大きかった。
- ・楽しかった。雨も降っていたけど逆に思い出に残りました。
- ・かなりスケジュールが詰められていたのですがごく楽しめたが、かなり疲れがたまった。
- ・4日間あったけど2日はほぼ移動で実質2日しかなかったのもっと余裕を持って楽しみたかった。けどすごく濃い4日間になっていい経験になりました。
- ・もう最高すぎました。学校交流が意外に楽しすぎて帰りたくなかったです。永康街の小籠包美味しかった！一番ってくらい！！また行きたいです。
- ・海外での生活を通して、文化や価値観の違いを体感でき、新しい学びと考えが芽生えました。
- ・いい経験ができてよかった。初めてのことがいっぱい楽しかった。

修学旅行の事前学習

『公共』の夏休み課題『台湾新聞を書こう』

①歴史②食③言語④地理⑤文化の5つからテーマを1つ選び、調べた内容と考えたことをA4用紙1枚にまとめる。

台湾の歴史を学び、日本との関係性について考えを深める。

2年「公共」の時間に学年の山田先生から台湾の歴史について学びました。

『異文化理解に向けて』 パネルディスカッション

日本と異なる台湾文化を示すスライドを見ながら、グループ毎に問題に回答する。台湾出身の川口斐斐先生とシンディ先生のお二人をパネラーとして迎え、解説をしていただきました。台湾の文化、教育、社会の在り方について理解を深め、自分の目で見、体感することを通して日本の文化や社会を対象化することができます。その上で互いの良さを認め合う意識の醸成に努めました。

『台湾語で会話レッスン』

シンディ先生にHRにお招きし、お店での注文の際の中国語での日常会話等をご指導いただき、永康街の班別学習での行き先を決める上でのアドバイスをいただきました。

「新温泉町恒久平和記念式」平和祈念作文より抜粋 2年A組 松岡 沙希さん

『台湾で学んだこと』

毎日のように報道されていたロシアによるウクライナ侵攻のニュースは、いつしか目にすることが少なくなっている。それは、私たちにとっては遠い国の出来事であって、私たちには関係のないことのように感じているからではないだろうか。日本は平和な国であり、日本に住んでいる間は侵攻や紛争というものを無縁に感じてしまうのは当然である。しかし、だからといって海外の出来事は他人事と捉えてしまって良いのだろうか。(中略)

今も世界のどこかで紛争が起こっている。しかし、私たちはそのことを知らずに生きている。また戦争までとはいかずとも、国内でも意見の対立する人同士で争いが起こっている。この現状を平和と呼んでも良いのだろうか。私の考える平和な世界とは、全ての人が互いに歩み寄り、それぞれの意見が尊重されることだ。そのような世界の実現には、相手の気持ちを考える想像力を持ち、限界までわかり合おうとすることが必要である。もし分かり合えなかったとしても武力に頼ることなく、話し合いで解決しようとする努力をし続けてほしい。

私は台湾への修学旅行を通して、コミュニケーションの重要性と可能性に気づくことができた。今後も周囲の人との対話を大切にして、互いに意見を尊重し合える人間関係を築いていきたい。

